

○伊東英委員長

ただいまから総務委員会を開会いたします。

協議題1.「閉会中の調査事項について」を議題とします。前回の委員会では、テーマの方向性を「市民と行政との情報共有について（SNSの活用）」として、皆様に調査テーマのお願いをしておりました。本日は具体的に調査テーマを決定してまいりたいと思いますのでよろしくお願ひします。

前回、委員の皆様にご意見を頂戴しまして、その意見を参考にして私のほうで委員長案を作っていましたので一度お目通しをいただきたいと思ひます。少し時間をおきます。

では、ご意見を伺ひます。

○松本如美委員

事前に文書を出していますが、意味がわからないといけなひので整理しますと、私自身の問題もありますが、情報の共有と市民協働へとつながっていく、つながり方がよくわかっていない。イメージが湧かないんです。要は市民が求める情報、行政が持っている情報を行政が出して市民がキャッチし、お互いの情報を共有する。そのことが市民協働とつながっていく、その道筋がよくわかっていないです。市民協働という切り口のテーマに持っていく方がよくわかっていないです。情報の点だけで言うと、3月の全協で出た資料があつて、僕自身が市役所の情報は必要な時に必要なやりとりをすればいいと思ひているので、市民の皆様も一般的には困った時、それから役所の業務に関わつてお願ひしたりとかして、普段の生活の中に市役所はあまり関係ない。その中にあふれる情報を出しても市民が必要なければ使わないわけだから、情報は必要な人が必要な時に取ればいいのかなと思ひているぐらいしか意識ないですが、全協の資料でさまざまなことを言っているのもそれひとつの方法だと思ひていますが、そういうことの中で問題点があるのかというそうでない感じで、要はSNSを使って情報共有しそれを市民協働に結び付けたいというイメージですが、私の解釈は、求めている情報がどんなものがあるか私自身がわかっていないのでそれはいいのかという心配があります。それと今のやり方で3月に全協の資料を使ってやっていると、そうやって情報は広がっていくんだけど、まだまだ市民と行政の垣根があつて、その垣根を取り払う必要があるのかどうかということも疑問として持っています。現状の課題があつてSNSで解決していくのかということなのか、またそれとは別に発信源としてSNSを使って情報を共有して市民協働につなげていくのか。押さえどころがよくわかっていない。今日の資料を読んでいると後段でSNSを使って市民協働に行くという内容に見えるので、そういうことかなと思ひますが、率直に言うと私自身がSNSの活用と市民協働とがなかなかつながらない。そこだけは未だに理解が十分でないことをお伝えします。テーマとしては何も。だからとて反対ということはありません。以上です。

○伊東英委員長

松本委員のおっしゃることはよく理解できます。私が市民ニーズを把握する機会を大きく

捉えたいという観点もあり、そういうことで情報発信して受け取る側も簡単に情報提供ができる環境になればいいなあと、それが大きく捉えると市民協働につながっていくという感じが見えたので、こういうふうに書きました。

○石川英之委員

この文章でわかりづらい部分があるんですが、上から7, 8, 9行目の文章で「行政が市民ニーズを把握する機会をより多く持つためには」で、ここで「行政」が主語なのに、次の文からは「市民が手軽に行政から情報提供できるようにする」というのは、文面がよくわからない。

○伊東英委員長

ちょっとつながりが悪い。しばらく休憩いたします。

午後 1時41分 休憩

午後 1時42分 再開

○伊東英委員長

委員会を再開します。他にご意見はありますか。

○中村宗雄委員

1点お聞きしたいんですが、委員長は現状の課題をどのように捉えているんでしょうか。課題があるからこの調査テーマがあると思うんですが、困っている市民がいたり、何か困っていることがあるから課題だと思うんですが現状の課題とは何ですか。

○伊東英委員長

行政の発信する情報をホームページや資料などの単体でしか捉えることしかできないことが課題で、それ以上の情報発信をしたいときに行政からきちんと情報を発信して、それを簡単に見れるようにすべきだということが課題。

○中村宗雄委員

僕はそうは思わなくて、それだけ情報を欲しい市民がいるかということ、欲しい人は欲しいようにやっていて、その整備に本当に問題があるのかなと思うんですね。僕は自分のレポートに書いたんですが、情報には2種類2通りの4つあって、行政側の情報と市民側の情報。要するに行政は発信して、市民がわかりやすくしてあげたいと思っていても、市民がそれを必要としないケースもたくさんあると。市民は欲しいものだけあればいいんですよ。逆に市民が望んでいるのは、自分たちの意見を反映させる意見をいう場がないとか、自分たちが市のやっていることを評価する場がないとか、そういうところにみんなのニーズがあると思うんです。ということは、双方向の情報が行政側と市民側にないということが現状の課題だと思うんです。市が市民に知らしめることは今までのホームページなどで十分していると思うんです。でも市民側が行政側に対して、この情報ツールを使って言える場がどこにもないわけです。市政懇談会や議会報告会、住民要望、その他、請願・陳情など、そういうところでしか発揮できないのが、もっと手軽に手のひらの上でやれることを目指すならば、そういうところを課題として捉えていくと。これイコール市民協働というのは飛躍しすぎているというのか、そんな基本ベースもできていないのに市民協働というのは違和感を感じる。双方向にお互いにお互いの情報をやり取りできる環境を作るというのが、市民協働の大前提という考えならわかるんですが、委員長はいかがお考えですか。

○伊東英委員長

まさに中村委員のおっしゃるとおりでございますが。行政から情報発信が今までと違うやり方でやると受け取る側も違う感じで手軽に情報をだせる環境を作りたいということがあって、この前段があったんですが。どのような手法をとったらいいかということで私の考えが先走ってそちらのほうへ入ったので。

○中村宗雄委員

そうしますと、この表題の「市民協働の推進における、ソーシャルメディアの活用について」は、別にソーシャルメディアやフェイスブックでなくてもいいわけで、必要なのは市民協働を推進するために市民と行政側の情報の共有、情報の双方向化をやるのが大事。ということを広く捉えたほうが。今のままだとSNSありき、ましてSNSの中のフェイスブックありきになってしまうと、大事なところが見えてなくなってしまう。フェイスブックをいかに使うかという話になってくると思いますが。その根っここの部分は、情報を市民と行政がどのようにお互い活用しあうか。もう少し間口を広げて、そこから行きつくところが結果、フェイスブックであったりというのはいいと思うんですが、今からフェイスブックに向かって走ろうという狭い感じがするのでは。

○伊東英委員長

ありがとうございました。

○山田清一委員

このソーシャルメディアというのは、言ってみれば掲示板、You Tubeの動画などかなり幅が広い。それとサブテーマがフェイスブックというのは、何か違和感があると思う。

○伊東英委員長

今の若い人がフェイスブックなどを手軽に利用して、手軽に情報発信できる時代になってきたということで、行政もそういうことをやったらどうかという提案で「フェイスブックの活用」を書いてみたんですが。しばらく休憩します。

午後 1時48分 休憩

午後 2時07分 再開

○伊東英委員長

委員会を再開します。本年度の閉会中の調査事項を「市民と行政との情報共有・活用について」としたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

【異議なしとの声あり】

○伊東英委員長

ありがとうございます。それでは本年度の閉会中の調査事項は、「市民と行政との情報共有・活用について」に決定しました。

次に、協議題2、次回の委員会は市内視察です。7月16日（火）全員協議会終了後の午後3時から「赤レンガ建物」を視察します。

以上で、本日予定いたしました議事はすべて終了いたしました。

ほかに何かありましたらお願いします。

○中村宗雄委員

この赤レンガは見えないところを見に行くという話がありましたが、どのような格好でいけばいいですか。着替えを持ってきたほうがいいですか。

○伊東英委員長

しばらく休憩いたします。

午後 2時08分 休憩

午後 2時10分 再開

○伊東英委員長

委員会を再開します。

7月16日（火）に赤レンガ建物を視察するわけですが、服装は自由でよろしくお願ひします。

議事はすべて終了しました。ほかに何かありましたらお願ひします。

【なしとの声あり】

ありがとうございました。

これもちまして、本日の委員会を閉会いたします。

午後 2時11分 閉会